

さんいんワイド

題字 大月 咲季(社日小6年)

言葉本来の意味など考察

倉吉の桑本さん



桑本裕二さん



桑本裕二さんのコラムをまとめた「ことばにまつわるエトセトラ」

倉吉市在住の言語学者、桑本裕二さん(58)が山陰中央新報に連載したコラム「ことばにまつわるエトセトラ」を書籍にまとめて出版した。「付度」「ばえ」といった流行語や新語、倉吉市をはじめ山陰両県の

2023年8月から1年間に28本、25年1月から半年間に続編12本を連載。書き下ろしの1本を加えて計41本をまとめた。

「付度」は森友、加計学園問題のキーワードとなり「権力者の意向をくんで良きに計らう」という文脈で使われた。桑本さんは、ネガティブな使われ方が前面に出てしまったため「他人の心中を推し量る」という本来の意味で使っても誤解され、悪い印象を持たれかねないとの懸念を説く。

山陰両県の各地で使われ

る方言「だらず」は地域により微妙に意味が違う点に着目。倉吉市では「ばか」の意味だが、「どこか憎めないかわいいやつ」とのニュアンスを含み、松江市では「整だらず」のように熱狂ぶりの自虐的なアピールに使われ、大田市では「怠け者」を表すと紹介する。桑本さんは、誰もが何げなく使い、生活に欠かせない言葉に引かれて研究してきた。「言葉を深く知ることがどれほど面白いか、知ってほしい」と話した。書籍「ことばにまつわるエトセトラ」は山陰中央新報社発行。新書判、156ページのオールカラー。1320円。山陰両県の主要書店や山陰中央新報社本社で購入できる。

(榎井映志)

日野郡3町医療連携進む

日野病院 看護師派遣し質維持

人口減少が進む鳥取県日野郡(日野、日南、江府3町)の医療連携が進んでいる。日野病院(鳥取県日野町野田、99床)は2025年から26年度にかけて、看護師の採用が増加し、江府町の医療機関などに看護師を派遣し、3町の医療機関では医師も連携している。医療人材が十分ではない中、協力して医療の質を維持し、安心して住み続けられる地域づくりに取り組んでいる。(藤本みのり)

14日午前、江尾診療所(江府町江尾)には患者が途切れることなく訪れた。対応したのは日野病院から派遣

された看護師佐野美紀さん(29)。武地幹夫所長のそばで診察をサポートした。佐野さんは日野病院で9年間、病棟を中心に勤務。4月から1年間、江尾診療所で働き、午前は外来業務、午後は武地所長と往診に向かう。同診療所の看護師は7人いるが、育児などで全員がフルタイムで働けないため仕事の回しが課題だった。救世主となった佐野さんは「慣れないこともあるが、日野病院でも生かせるようレベルアップしたい」と充実した表情を見せた。

1人を派遣。日野町健康福祉課の住田秀樹課長は「早速、地域に出かけて町民と交流してもらっており、非常に頼もしい」と期待を寄せる。医師も3町の日南、日野両病院、江尾診療所同士で週に数回、相互派遣し、それぞれの医療機関の診療科を充実させる。日野病院の



医師の診察後、患者のカルテを確認する佐野美紀さん(左)と鳥取県江府町江尾、江尾診療所

派遣の取り組みは、20年に日野郡3町と鳥取大医学部付属病院による医療連携協定に基づく。日野、江府、伯耆3町でつくる一部事務組合が運営する日野病院は25年に中途6人、26年に新卒3人、中途5人の看護師を採用し、派遣できる体制を確保した。日野病院は現在、佐野さんのほか、日野町に保健師

人事

◇第8管区海上保安本部(15日付) 関係分
第8管区海上保安本部警備救難部長(境海上保安部副部長) 上藤貴範
第8管区海上保安本部警備救難部副部長(境海上保安部副部長) 田中裕一
第8管区海上保安本部警備救難部警備課長(境海上保安部警備課長) 米本勝成
第8管区海上保安本部警備救難部警備課長(境海上保安部警備課長) 米本勝成
第8管区海上保安本部警備救難部警備課長(境海上保安部警備課長) 米本勝成
第8管区海上保安本部警備救難部警備課長(境海上保安部警備課長) 米本勝成

三瓶山で山開き

大田西の原で安全祈願

国立公園・三瓶山が15日、山開きを迎えた。大田市三瓶町の三瓶山西の原で神事が催され、関係者が登山客らの安全を祈願した。地元や観光関係者でつくる三瓶山山開き実行委員会が毎年開き46回目。あいにくの雨で登山客の姿は見られなかったが、関係者4人が登山口の一つである西の原フィールドセンターに集まり、三瓶山山頂神社の神職とともにシーズンの無事を祈った。地元で商店を営む児玉賢次実行委員長(78)は「三瓶山は子どもから年配者まで誰もが楽しめる。



山開きを迎え、安全を祈願する関係者(大田市三瓶町、西の原フィールドセンター)

総合体育館改修の建設業4社 松江市に400万円寄付

バスケットボール男子Bリーグ1部(B1)の島根スサノオマジックがホームアリーナとして使う松江市総合体育館(松江市学園南1丁目)の大規模改修に伴い、工事を手がける建設業4社の特別共同企業体(JV)が同市に改修費として計400万円を寄付した。佐藤工業(東京都)、松江土建(松江市学園南2丁目)、カナツ技建工業(同市春日町)、一畑工業(同市千鳥町)が100万円ずつ寄付した。佐藤工業は企業版ふるさと納税制度を活用した。15日、市役所で上定昭仁市長が各代表者に感謝状を手渡した。佐藤工業中国支店の長浜昭洋席長は「工事役員中国支店長は、秋口には市民の皆さまに披露できるよう努める」とし、上定市長は「スポーツ施設のほか、防災拠点の機能を

持つ。市民生活になる形で使用べた。島根は2017年に始まり「Bリーグ」(B1)ア(B)プレミ席を5千席にPや来賓が使用別棟を設ける億4千万円。完成を予定し市によると対し、県内外月未時点33円の寄付が集いう。